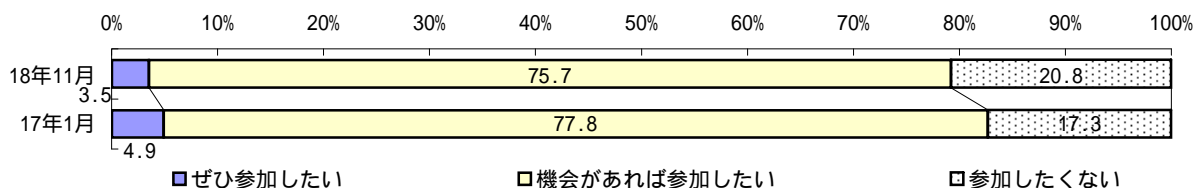


問3 2 ボランティア活動の活性化

(1) あなたは、機会があればボランティア活動に参加してみたいですか。次の中から一つ選んで番号を でかこんでください。

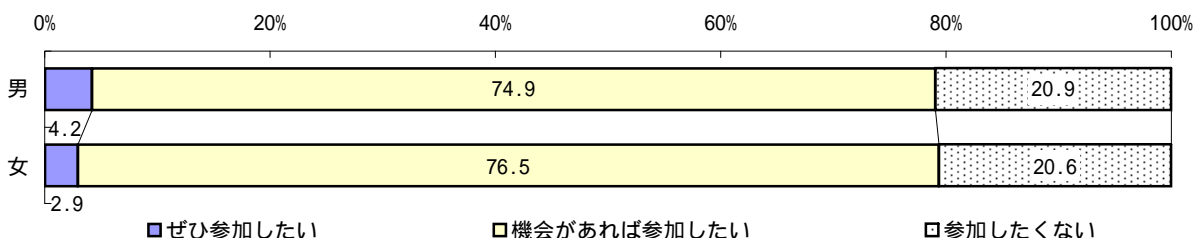
	(%)
1 ぜひ参加したい	3.5
2 機会があれば参加したい	75.7
3 参加したくない	20.8

ボランティア活動に参加してみたいかどうかを聞いたところ、「機会があれば参加したい」と答えた人の割合が75.7%と最も多くなっており、「ぜひ参加したい」(3.5%)と合わせて8割弱の人がボランティア活動に参加してみたいと考えている。



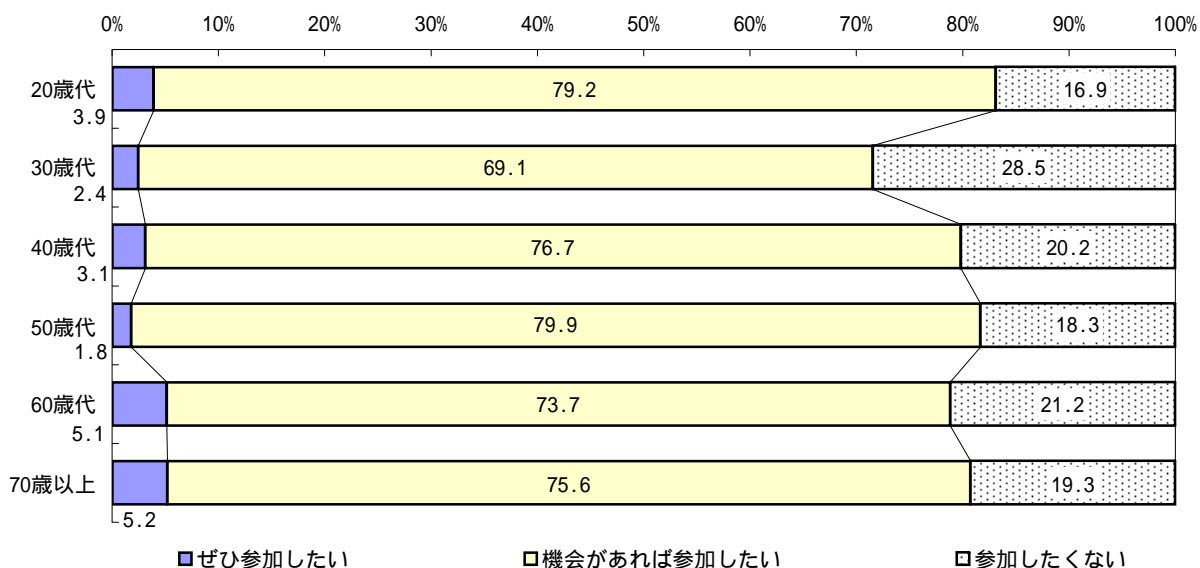
【性別】

性別にみると、ボランティア活動に参加したいとする人の割合は、男性(79.1%)、女性(79.4%)とほぼ8割に達している。



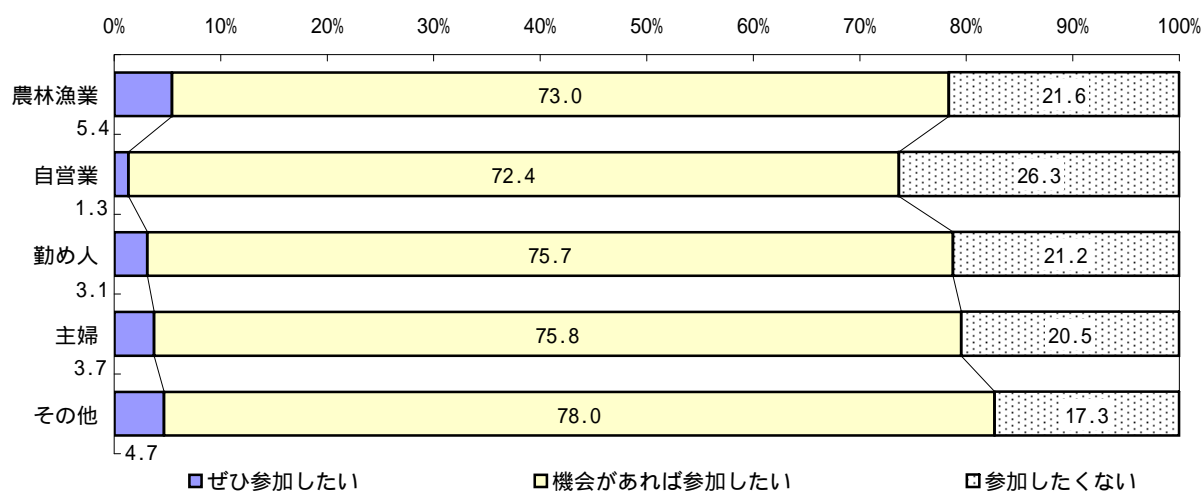
【年齢別】

年齢別にみると、ボランティア活動に参加したいとする人の割合は、20歳代で83.1%と最も多く、以下50歳代(81.7%)、70歳以上(80.8%)、40歳代(79.8%)、60歳代(78.8%)、30歳代(71.5%)の順になっている。



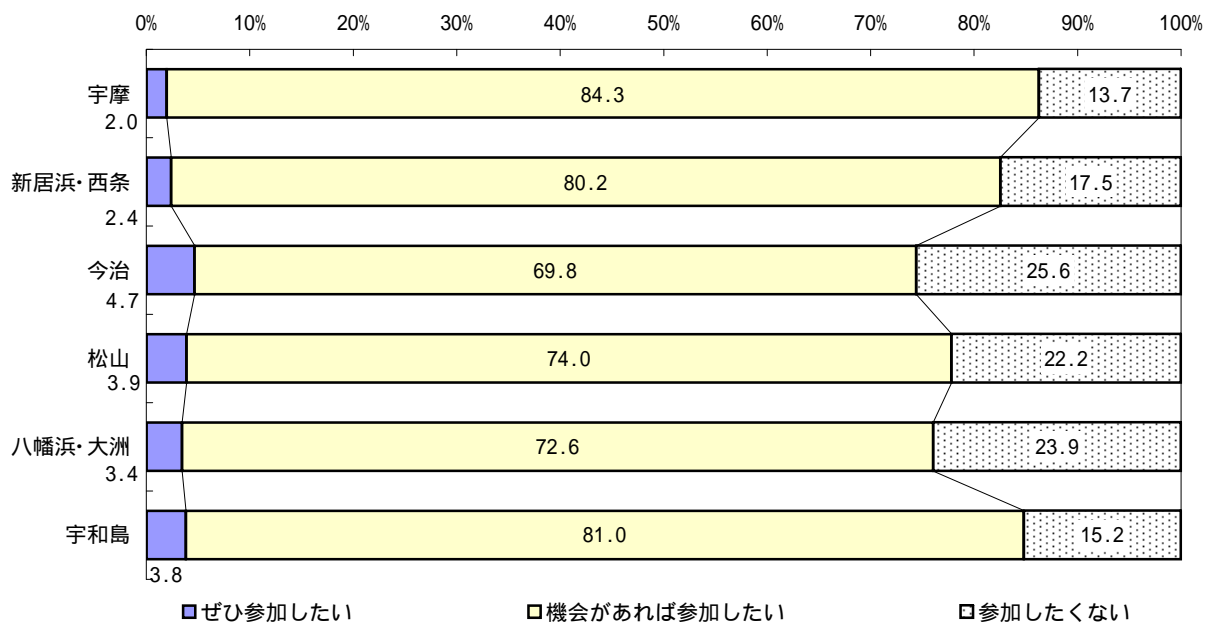
【職業別】

職業別にみると、ボランティアに参加したいとする人の割合はその他で82.7%と最も多く、以下主婦（79.5%）、勤め人（78.8%）、農林漁業（78.4%）、自営業（73.7%）の順となっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみるとボランティアに参加したいとする人の割合は宇摩圏域で86.3%で最も多く、以下宇和島圏域（84.8%）、新居浜・西条圏域（82.6%）、松山圏域（77.9%）、八幡浜・大洲圏域（76.0%）、今治圏域（74.5%）の順になっている。



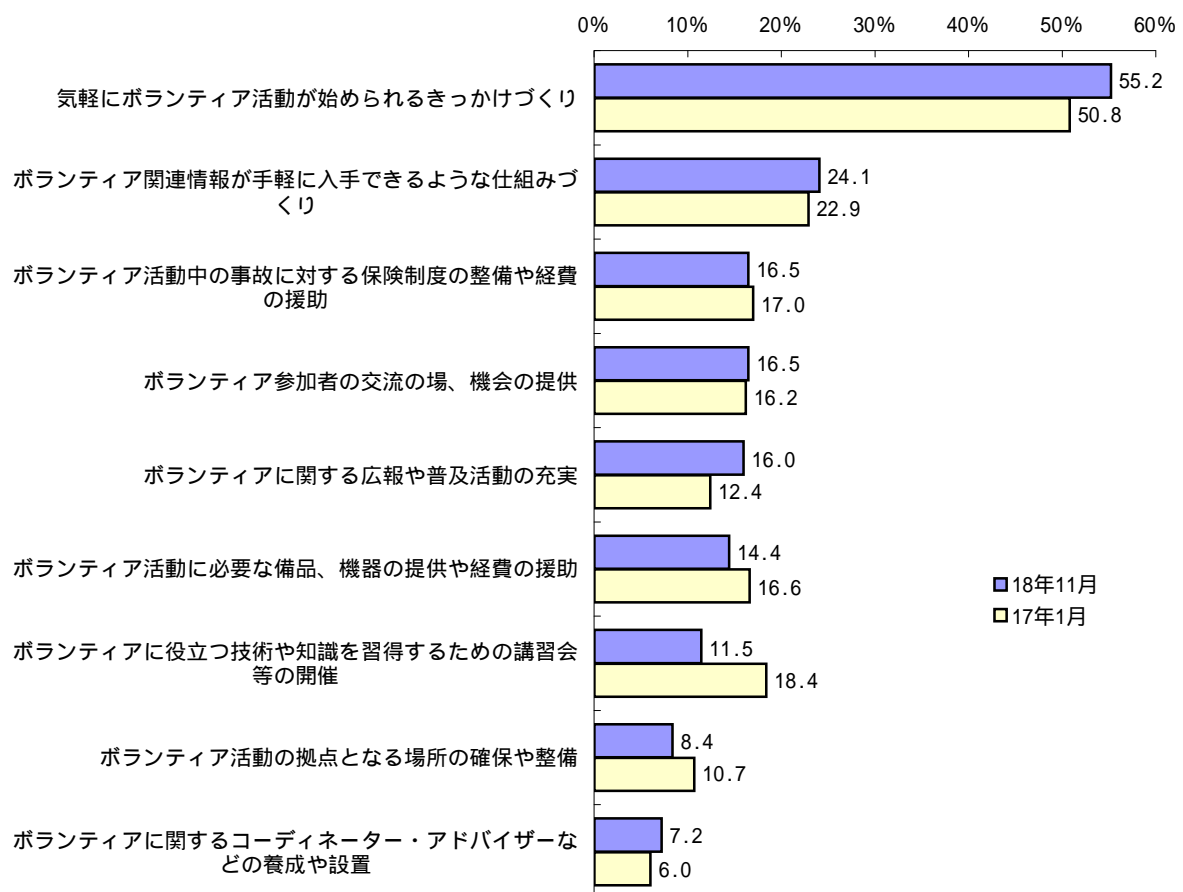
(2) あなたは、ボランティア活動の活性化を図るために、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思いますか。次の中から二つまで選んで番号を でかこんでください。

(複数回答) (%)

1	気軽にボランティア活動が始められるようなきっかけづくり	55.2
2	ボランティア関連情報が手軽に入手できるような仕組みづくり	24.1
3	ボランティアに関するコーディネーター・アドバイザーなどの養成や設置	7.2
4	ボランティア活動の拠点となる場所の確保や整備	8.4
5	ボランティア活動に必要な備品、機器の提供や経費の援助	14.4
6	ボランティアに関する広報や普及活動の充実	16.0
7	ボランティア活動中の事故に対する保険制度の整備や経費の援助	16.5
8	ボランティアに役立つ技術や知識を習得するための講習会等の開催	11.5
9	ボランティア参加者の交流の場、機会の提供	16.5
10	その他	0.8
11	わからない	10.3

ボランティア活動の活性化を図るため、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思うかを聞いたところ、「気軽にボランティア活動が始められるようなきっかけづくり」と答えた人の割合が55.2%と特に多く、以下「ボランティア関連情報が手軽に入手できるような仕組みづくり」(24.1%)、「ボランティア活動中の事故に対する保険制度の整備や経費の援助」「ボランティア参加者の交流の場、機会の提供」(ともに16.5%)、「ボランティアに関する広報や普及活動の充実」(16.0%)などの順となっている。

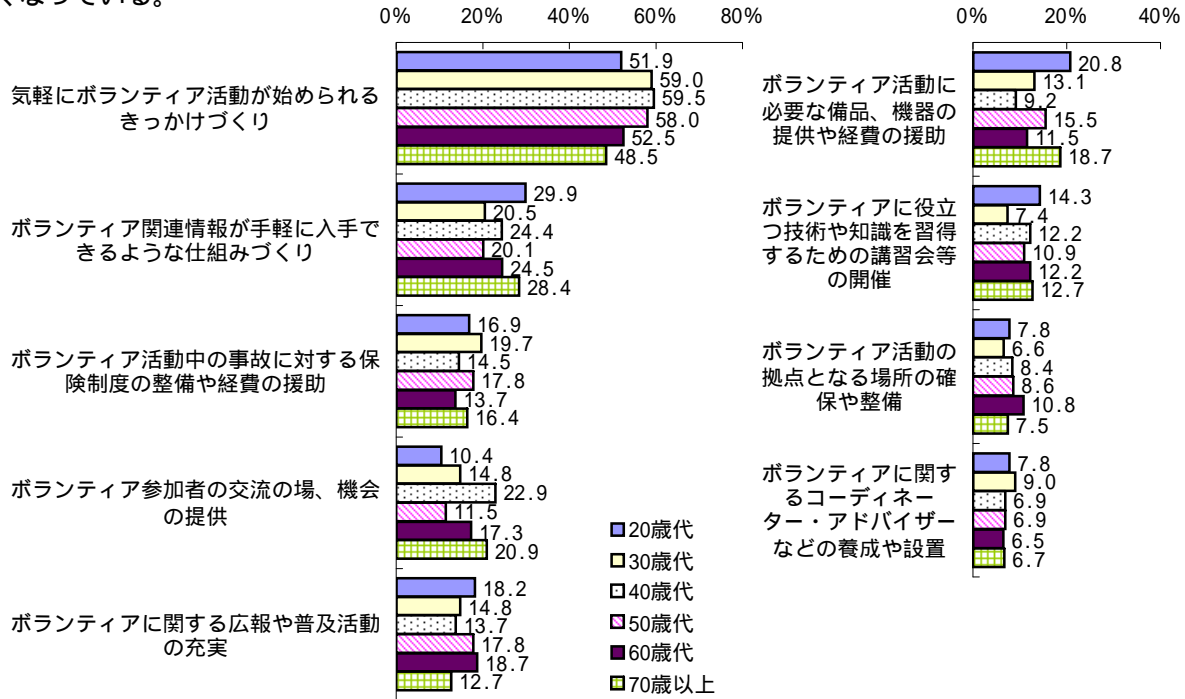
なお、前回調査と比較すると、「ボランティアに役立つ技術や知識を習得するための講習会等の開催」と答えた人の割合が6.9ポイント減少している。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「気軽にボランティア活動が始められるきっかけづくり」と答えた人の割合が最も多くなっている。

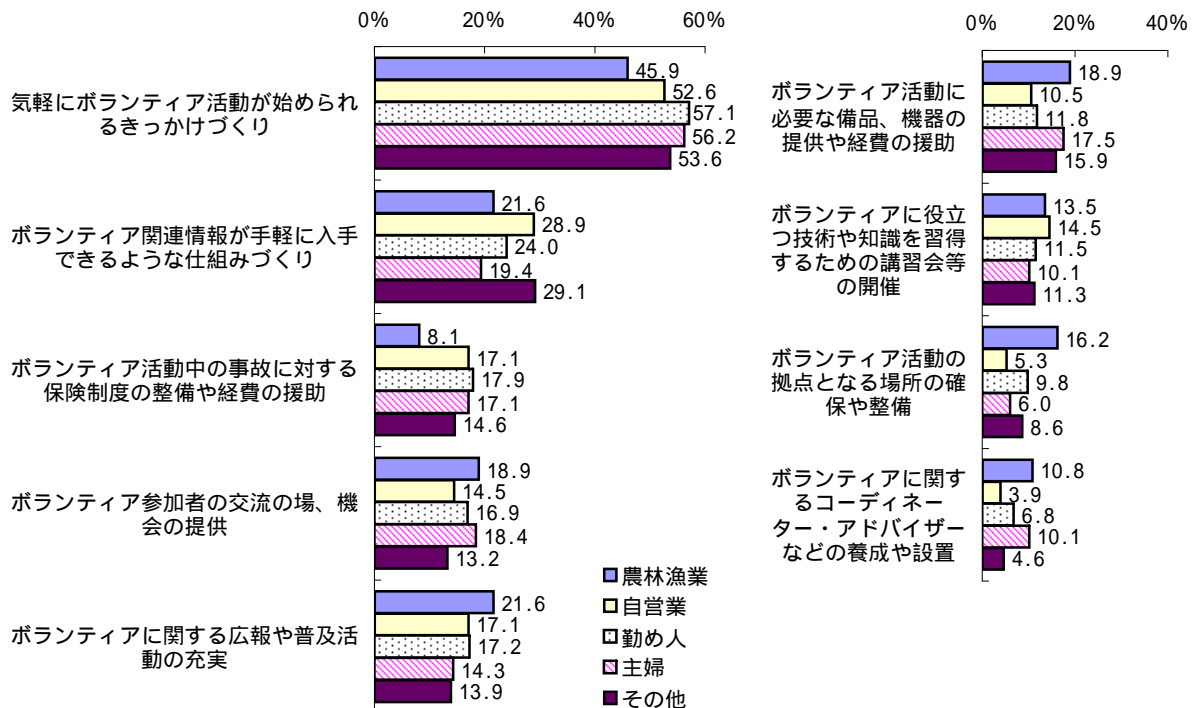
また、「ボランティア関連情報が手軽に入手できるような仕組みづくり」と答えた人の割合は20歳代及び70歳以上で、「ボランティア活動中の事故に対する保険制度の整備や経費の援助」は30歳代で、「ボランティア参加者の交流の場、機会の提供」は40歳代及び70歳以上で、他の年齢層に比べて多くなっている。



【職業別】

職業別にみると、全ての職業で「気軽にボランティア活動が始められるきっかけづくり」と答えた人の割合が最も多くなっている。

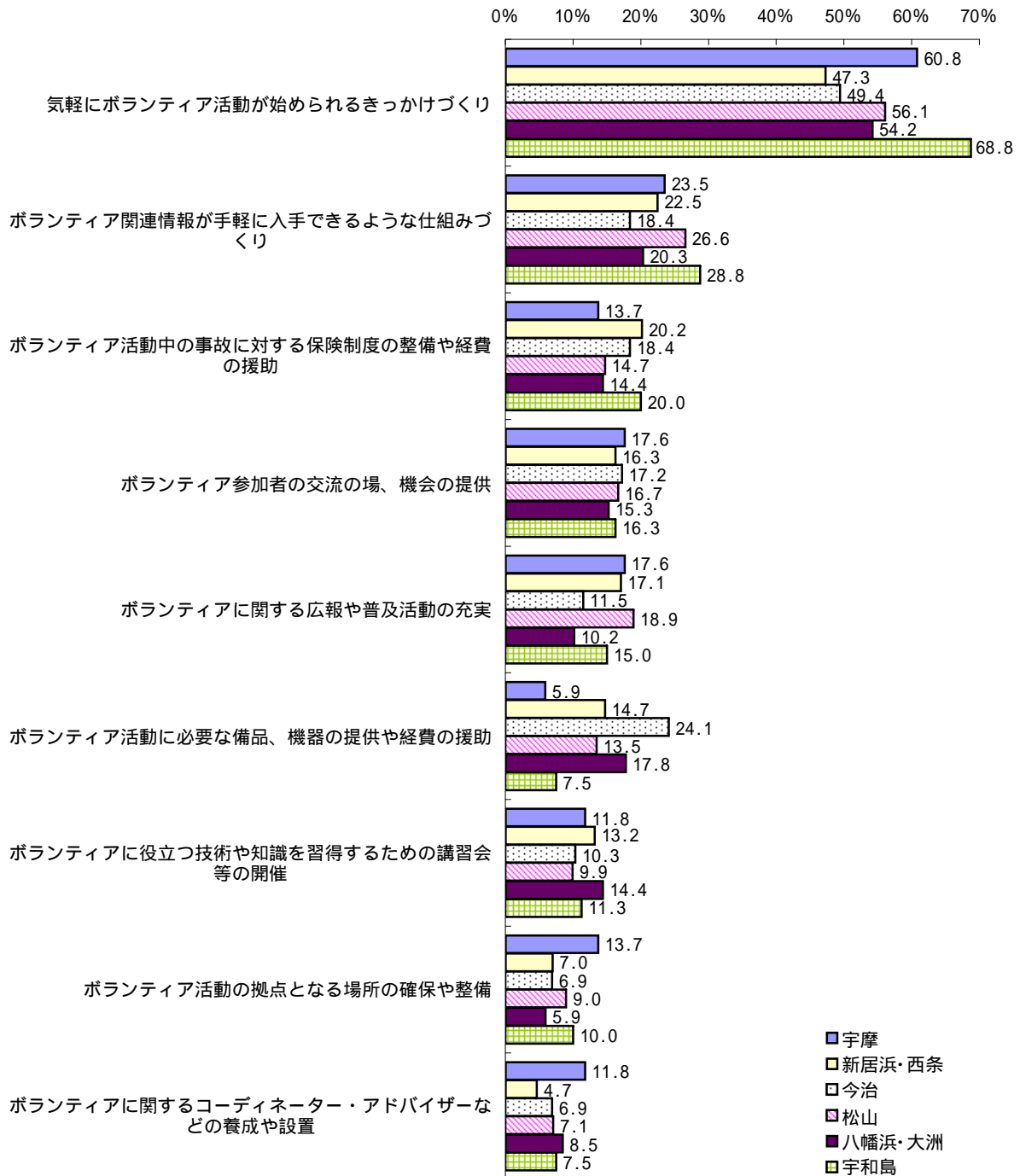
また、「ボランティア関連情報が手軽に入手できるような仕組みづくり」と答えた人の割合は自営業及びその他で、「ボランティア参加者の交流の場、機会の提供」は農林漁業及び主婦で、「ボランティアに関する広報や普及活動の充実」は農林漁業で、それぞれ他の職業と比べて多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「気軽にボランティア活動が始められるきっかけづくり」と答えた人の割合が最も多くなっており、特に宇和島圏域で68.8%と特に多く、一方、新居浜・西条圏域（47.3%）、今治圏域（49.4%）では、比較的少なくなっている。

また、「ボランティア関連情報が手軽に入手できるような仕組みづくり」と答えた人の割合は松山、宇和島圏域で、「ボランティア活動中の事故に対する保険制度の整備や経費の援助」は新居浜・西条、宇和島圏域で、他の生活圏域と比べて多くなっている。



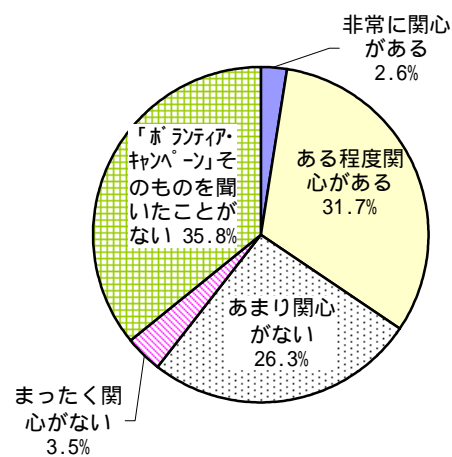
問33 「ボランティア・キャンペーン」への参加（新規調査課題）

（1）ボランティア活動への参加のきっかけづくりとして、ボランティア募集情報を紹介した情報誌「イベントブック」を広く配布し、県民の皆さんにボランティア体験をしていただく「サマーボランティア・キャンペーン」、「ウィンターボランティア・キャンペーン」を実施しています。「ボランティア・キャンペーン」について、どの程度関心がありますか。次の中から一つ選んで番号を でかこんでください。

	(%)
1 非常に関心がある	2.6
2 ある程度関心がある	31.7
3 あまり関心がない	26.3
4 まったく関心がない	3.5
5 「ボランティア・キャンペーン」そのものを聞いたことがない	35.8

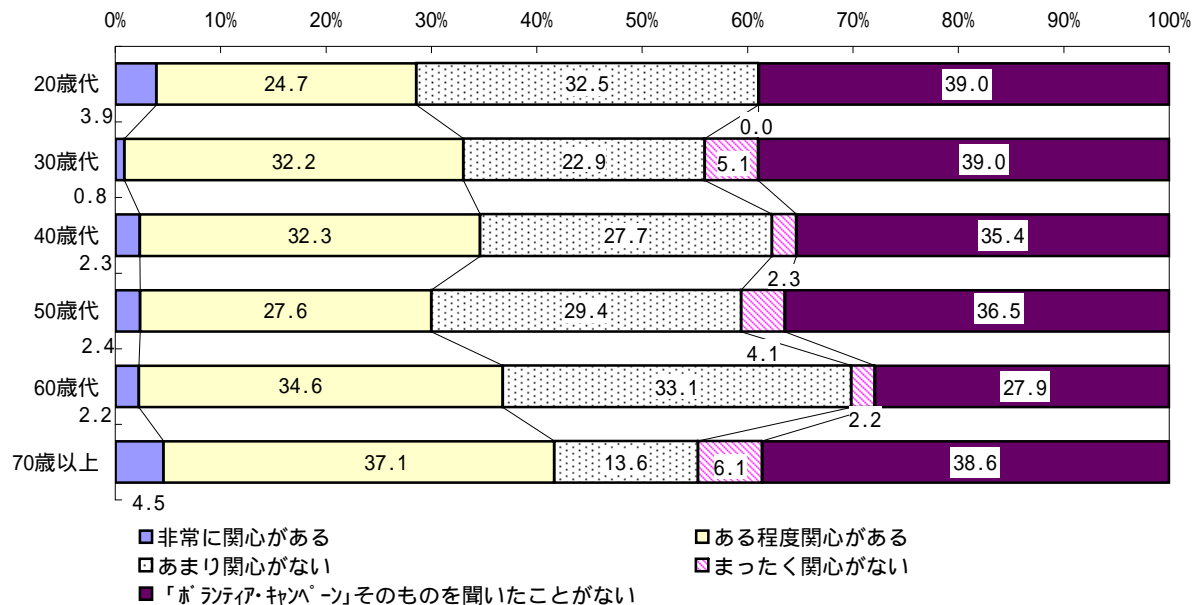
ボランティア活動への参加のきっかけづくりとして県が実施している「ボランティア・キャンペーン」についての関心の度合を聞いたところ、「関心がある」と答えた人が34.3%〔「ある程度関心がある」（31.7%）、「非常に関心がある」（2.6%）〕で3割を超えている。

一方、「『ボランティア・キャンペーン』そのものを聞いたことがない」と答えた人も35.8%と3割を超えている。



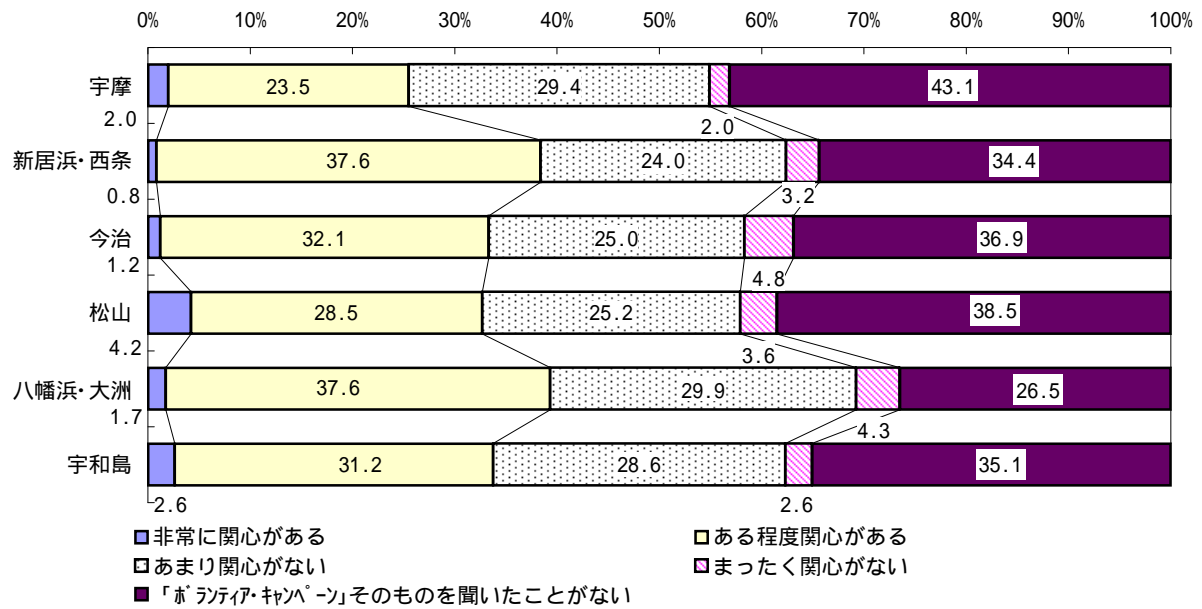
【年齢別】

年齢別にみると、60歳代を除く全ての年齢層で「『ボランティア・キャンペーン』そのものを聞いたことがない」と答えた人の割合が、60歳代では「ある程度関心がある」が最も多くなっている。



【生活圏域別】

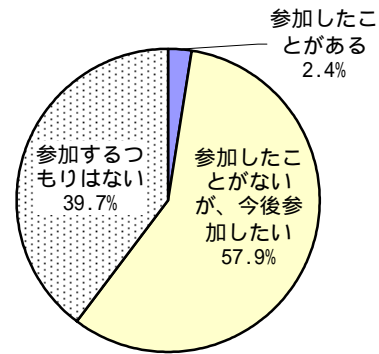
生活圏域別に見ると、宇摩、今治、松山、宇和島圏域では「『ボランティア・キャンペーン』」そのものを聞いたことがないと答えた人の割合が、新居浜・西条、八幡浜・大洲圏域では「ある程度関心がある」が最も多くなっている。



(2) 「ボランティア・キャンペーン」で配布した「イベントブック」で紹介するボランティア活動に参加したことがありますか。次の中から一つ選んで番号を でかこんでください。

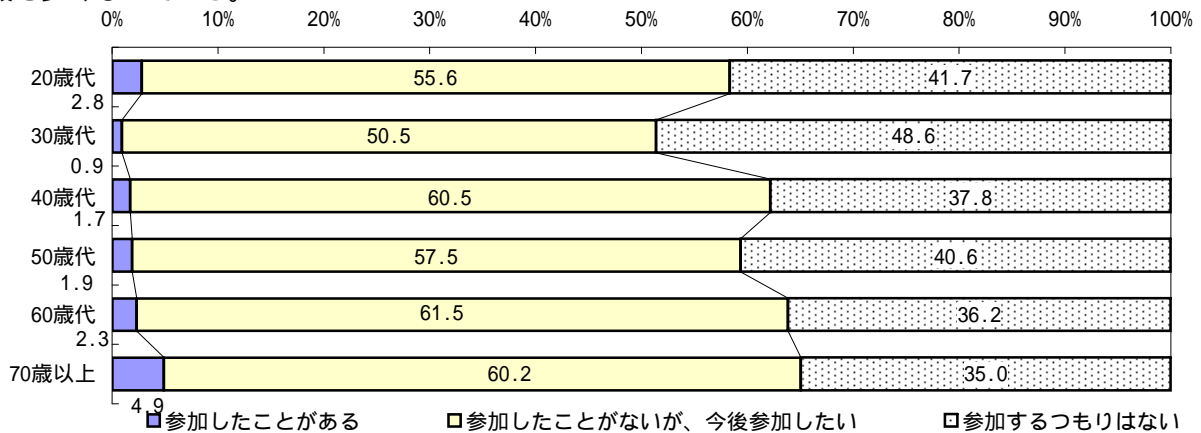
	(%)
1 「キャンペーン」で紹介するボランティア活動に参加したことがある	2.4
2 「キャンペーン」で紹介するボランティア活動に参加したことはないが、今後参加したい	57.9
3 「キャンペーン」で紹介するボランティア活動に参加するつもりはない	39.7

「イベントブック」(ボランティア情報を掲載した情報誌)で紹介するボランティア活動に参加したことがあるか聞いたところ、「参加したことはないが、今後参加したい」と答えた人の割合が57.9%で最も多く、一方「参加するつもりはない」と答えた人は39.7%となっている。



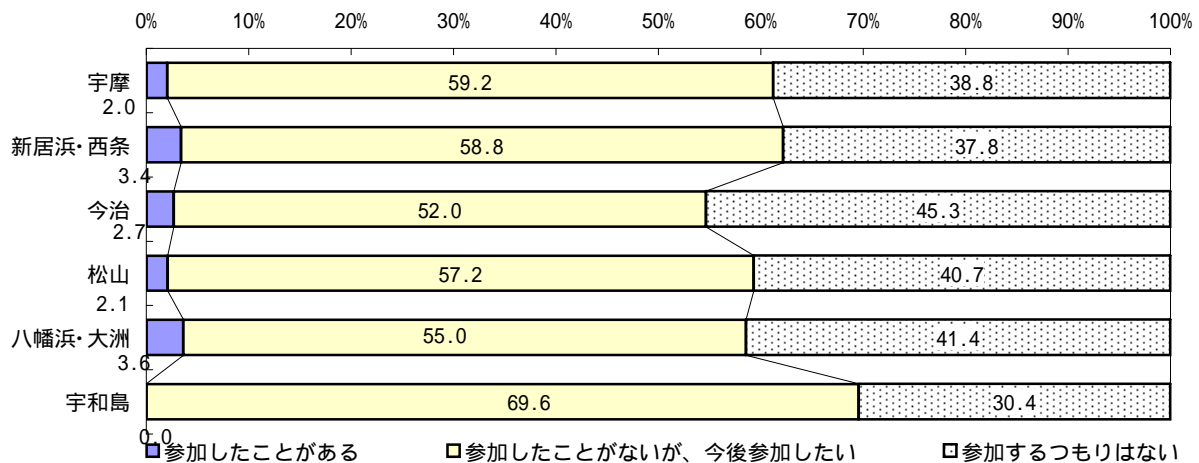
【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「参加したことはないが、今後参加したい」と答えた人の割合が最も多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての生活圏域で「参加したことはないが、今後参加したい」と答えた人の割合が最も多くなっている。



問34 ノーマイカー通勤デーへの参加（新規調査課題）

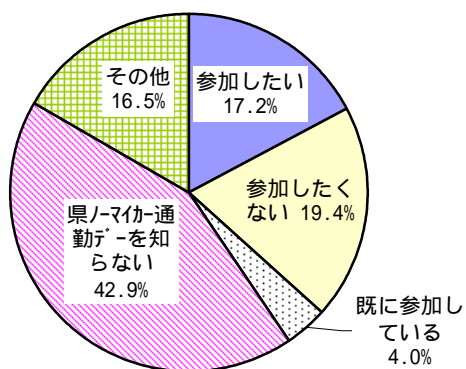
愛媛県では、過度な自家用車利用から公共交通機関を利用するライフスタイルへの転換を図るため、ノーマイカー通勤デーの設定を県民の皆さんに呼びかけています。

あなたは、月に1度の「愛媛県ノーマイカー通勤デー」に参加してみたいですか。次の中から一つ選んで番号を で囲んでください。

	(%)
1 参加したい	17.2
2 参加したくない	19.4
3 既に参加している	4.0
4 愛媛県ノーマイカー通勤デーを知らない	42.9
5 その他	16.5

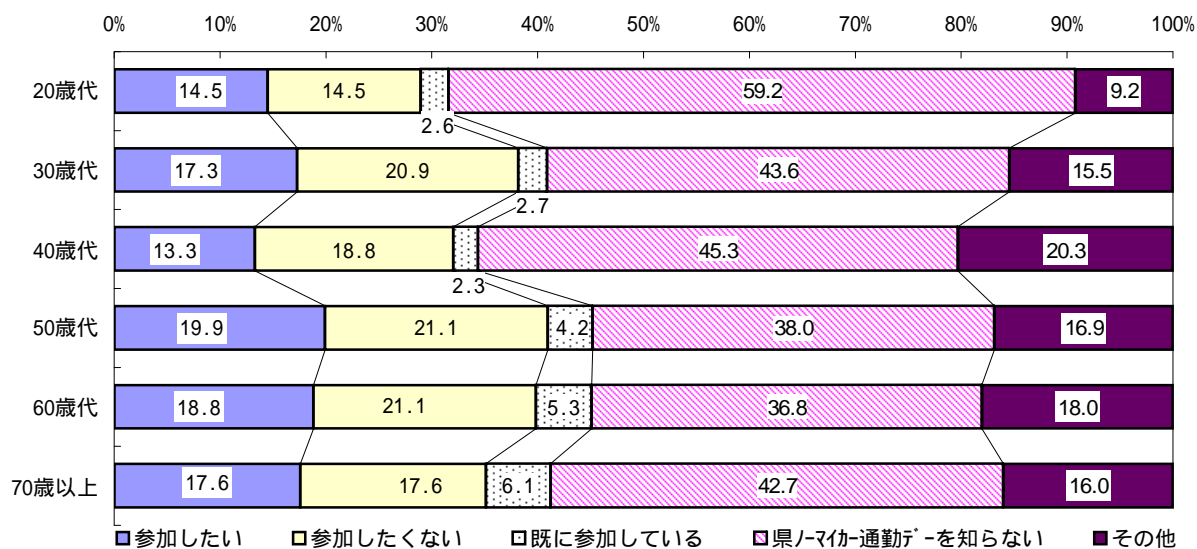
県が実施しているノーマイカー通勤デーへの参加について聞いたところ、「参加したい」と答えた人の割合は17.2%、「既に参加している」は4.0%となっている。

一方、「参加したくない」は19.4%、「愛媛県ノーマイカー通勤デーを知らない」は42.9%となっている。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「県ノーマイカー通勤デーを知らない」と答えた人の割合が最も多くなっており、中でも20歳代で59.2%と特に多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての生活圏域で「県ノマイカー通勤デーを知らない」と答えた人の割合が最も多くなっており、中でも今治圏域で53.2%と特に高くなっている。

